

新入生のボランティア意識——「新入生ボランティア活動アンケート」から

1. 調査の目的と概要

ボランティアセンターでは、毎年4月の新入生オリエンテーションの際に、ボランティア活動に関するアンケートを行っている。新入生のボランティア意識や活動への希望を明らかにし、センターが取り組むべき課題を明らかにすることを目的としている。2001年度より始められた全新入生を対象にしたこの調査は、2007年度で7回目である。年度ごとに質問事項の見直しなど小さな変化はあるものの、基本的には同じ質問内容を入学生のほぼ全員に回答してもらう形式を踏襲してきた。調査結果は各年度の報告書に記載されているほか、ボランティアセンターを通してボランティア募集をする外部団体などにも提供され、学内外で活用されている。2007年度は、新入生2,730人から解答を得られた。

調査の概要は次のとおりである。

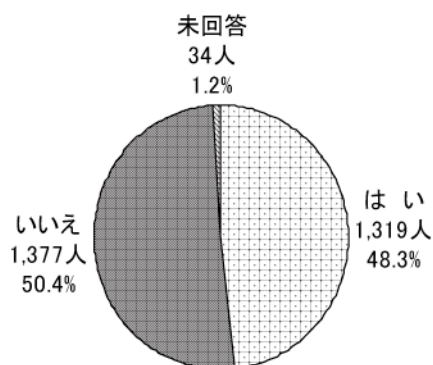
調査対象者	明治学院大学 2007年度 1年生
調査時期	2007年4月2日～9日
調査方法	新入生オリエンテーションでアンケート用紙を配布しその場で回収した。
回収の結果	総数 2,730名 文学部（英文学科 295名、フランス文学科 129名、芸術学科 144名） 経済学部（経済学科 292名、経営学科 180名、国際経営学科 162名） 社会学部（社会学科 247名、社会福祉学科 241名） 法学部（法律学科 246名、政治学科 104名、消費情報環境法学科 168名） 国際学部（国際学科 320名） 心理学部（心理学科 202名）
調査項目	* 大学入学以前のボランティア活動経験について * 大学時代にボランティア活動に参加したいか * 関心のある活動分野 * ボランティア活動に参加しようと思わない理由 * ボランティア活動に対する懸念 * ボランティアセンターの認知度など

2. 調査結果

(1) 大学入学以前のボランティア活動経験について

「これまでにボランティア活動に参加したことがありますか」【図1】という質問に対して、「はい」が48.3%、いいえが50.4%だった。大学入学前に半数近くの学生がすでに何らかのボランティア活動に従事した経験があるという結果となった。この質問項目は2006年度から追加されたが、昨年度が30.5%という数値だったことを考えると、新入生のボランティア活動の経験率は17.8%増加していることがわかる。ただし、2006年度は中学校や高校などで行事として行われたボランティア活動を排除し、自ら進んで活動に関わった学生の割合を知るため、質問文が今年度とは異なり、「大学入学以前に自発的にボランティア活動に参加したことがありますか」という文章だった。2007年度は、紛らわしい誘導的な質問をなるべく避けること、学校などで半ば強制的におこなわれるボランティア活動も経験の一種であることと考へ、質問文を訂正した。そのため、数値の上では大きな変化が表れている。

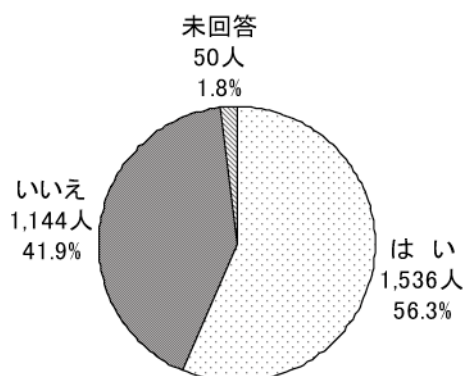
【図1】 これまでにボランティア活動に参加したことがありますか？



(2) 大学時代にボランティア活動に参加したいか

「大学時代にボランティア活動に参加したいと思いますか」【図2】という質問に対して、「はい」が56.3%、「いいえ」が41.9%だった。2005年度には63.1%、2006年度には60.4%であり、2007年度は前年度から4.1%低下している。「ボランティア活動に参加したくない理由」【図7】では、「時間がない」という理由を回答した学生が、2006年度は49.3%だったのが2007年度には47.0%に減少していること、「関心がない」という理由を回答した学生が、2006年度には34.0%だったのが2007年度には34.4%とほぼ変わらないことなどを考えると、時間がないという阻害要因以外の何らかの理由によって参加意欲が減少傾向にあることも考えられる。上述のように、大学入学前のボランティア経験率が増加傾向にあることを考えると、これまでのボランティア活動経験がその後の意欲に影響を及ぼしている可能性がある。

【図2】 大学時代にボランティア活動に参加したいと思いますか



次に「ボランティア活動に参加したいか」という質問に対する回答を、学科ごとに見ていくことにする。「参加したい」という回答した割合が高い順に表したのが、【表1】である。まず、「参加したい」という回答の順番を見ていくと、2005年度、2006年度と同様に社会福祉学科（86.3%）がとびぬけて高い意欲を示している。そして心理学科（75.2%）、国際学科（75.0%）という70%台のグループが続く。国際学科は、2006年度は社会福祉学科と並び85%以上で全学でも第二位だったが、2007年度は10%ほど低下している。その後に英文学科（59.0%）、国際経営学科（58.6%）、フランス文学科（57.4%）、政治学科（52.9%）と50%台のグループとなっている。経営学科は、2005年度には学科ごとの比較では最下位に、2006年度には降順で第5位に浮上したものの、2007年度には再び最下位に位置している。

全体として「ボランティア活動に参加したい」という回答が低下している中、参加したいと回答した学生の割合が増加した学科は、国際経営学科と心理学科のみである。国際経営学科は2006年度の46.5%から2007年度には58.6%へ、また心理学科は72.8%から75.2%へとそれぞれ増加している。反対に参加したいと回答した学生の割合が減少した学科は、変化の大きい学科を挙げると、政治学科が67.7%から52.9%へと14.8%低下しているほか、社会学科でも57.0%から45.3%に、芸術学科でも58.7%から46.5%に、経営学科でも49.4%から32.8%へとそれぞれ低下している。このような減少分が結果として、参加したいと回答した学生の増加分を相殺するかたちで、全体としてボランティア活動への参加意欲は低下傾向にあることがわかった。

【表1】 大学時代にボランティア活動に参加したいですか（学科別）

学科	はい	政治学科	52.9
社会福祉学科	86.3	芸術学科	46.5
心理学科	75.2	社会学科	45.3
国際学科	75.0	経済学科	43.5

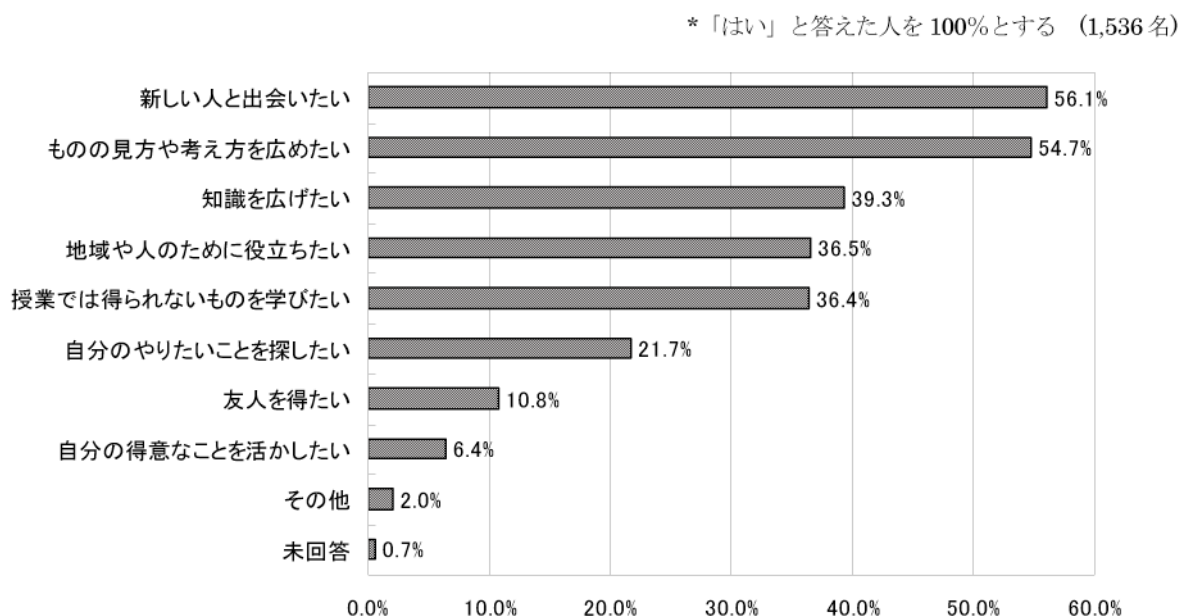
英文学科	59.0
国際経営学科	58.6
フランス文学科	57.4

消費情報環境法学科	42.3
法律学科	41.5
経営学科	32.8

「大学時代にボランティア活動に参加したい」と回答した学生に対し、「ボランティア活動に参加したい理由(複数回答)」【図3】を尋ねた。理由としてあげられているのは、「新しい人と出会いたい」(56.1%)、「ものの見方や考え方を広めたい」(54.7%)という回答が多かった。続いて、「知識を広げたい」(39.3%)、「地域や人のために役立ちたい」(36.5%)、「授業では得られないものを学びたい」(36.4%)という回答になっている。

2006年度の結果と比較すると、ほぼ順位も回答の割合も変化はない。ただし、「地域や人のために役立ちたい」という理由が2006年度は31.6%で第6位だったのに対し、2007年度は36.5%で第4位に浮上している。大学生のボランティア活動への期待は、自分を成長させたいという「自己実現型」であるとの指摘もあるものの、本学ではそれと同様に、本学の理念である“Do for Others”が浸透するにつれ、「他者指向型」の活動動機を持つ学生が一定数入学していることがわかる。

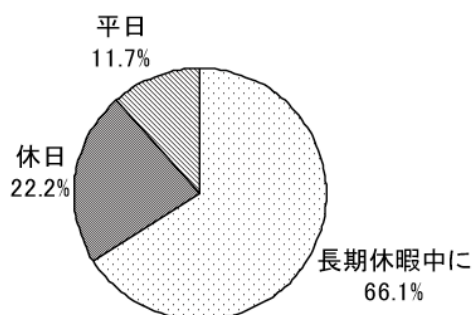
【図3】 ボランティア活動に参加したい理由（複数回答）



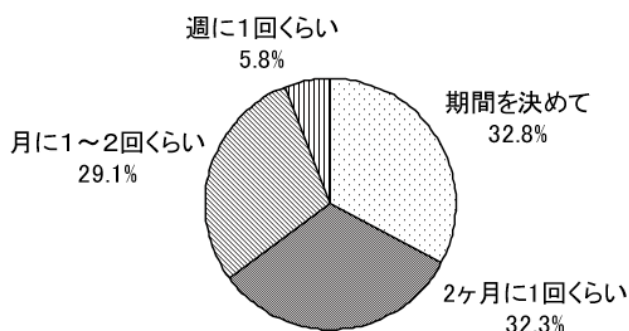
また、参加したいと回答した学生に対し、希望するボランティア活動のスタイルを尋ねた。活動日【図4】に関しては、第一位が「長期休暇中に」（66.1%）、第二位が「休日」（22.2%）、そして最後に「平日」（11.7%）となっている。2006年度と比較してもほとんど変化がない。頻度【図5】に関しては、第一位が「期間を決めて」（32.8%）参加したいと希望する学生であり、第二位が「2ヶ月に1回くらい」（32.3%）、第三位が「月に1～2回くらい」（29.1%）、最後に「週に1回くらい」（5.8%）となっている。「2ヶ月に1回くらい」と回答した学生が2006年度は21.1%だったのに対し、2007年度は32.3%に上昇し、また「週に1回くらい」という頻度の高い活動を希望している学生が2006年度は7.6%だったのに対し、2007年度は5.8%に低下するなど、全体としてなるべく頻度も低く拘束力のない活動を希望する学生が増加していることがわかる。

活動内容【図6】に関しては、第一位が「いろいろな活動に挑戦していきたい」（84.6%）、第二位が「一つの活動を続けていきたい」（13.9%）となっており、2006年度と比較してもほとんど変化がない。

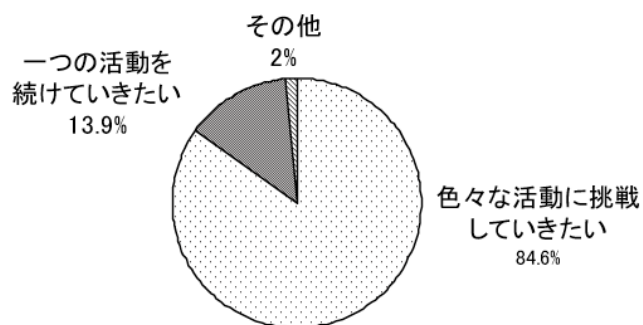
【図4】活動日



【図5】頻度



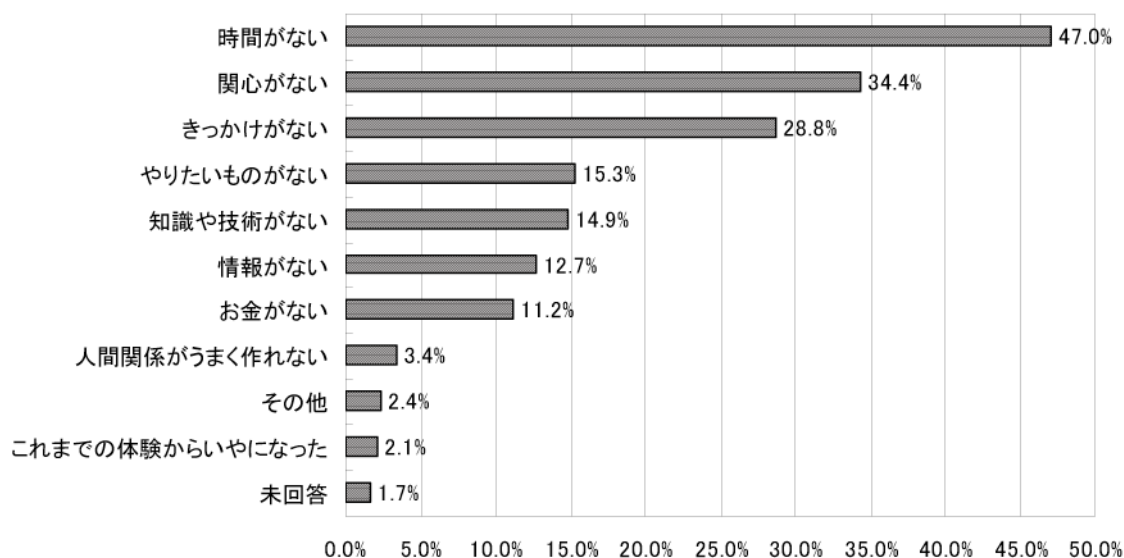
【図6】活動内容



一方、大学時代にボランティア活動に参加したいとは思わない学生に対し、その理由も尋ねた【図7】（複数回答）。第一位が「時間がない」（47.0%）、第二位が「関心がない」（34.4%）、第三位が「きっかけがない」（28.8%）だった。続いて「やりたいものがない」（15.3%）、「知識や技術がない」（14.9%）、「情報がない」（12.7%）、「お金がない」（11.2%）となっている。この阻害要因については、2005年度や2006年度と比較しても、順位も回答の割合もほぼ変化がない。小さな変化ではあるが、「時間がない」については2006年度が49.3%だったのに対し2007年度は47.0%に減少し、「関心がない」については2006年度が34.0%だったのに対し2007年度は34.4%と微増している。【図1】にあるように、入学前のボランティア活動の経験率が48.3%と、2006年度から17.8%も上昇していることを考えると、「これまでの体験からいやになった」という回答が増加することが予想されたものの、このような回答をした学生は2006年度の2.7%に対し2007年度は2.1%とほぼ変化がない。

【図7】 ボランティア活動に参加したいとは思わない理由

* 「いいえ」と答えた人を100%とする（1,144名）



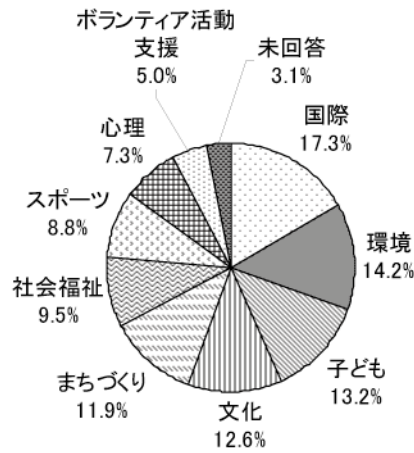
(3) 関心があるボランティア活動について

「関心があるボランティア活動分野」（複数回答）【図8】を尋ねたところ、「国際」（17.3%）が一番多く関心を集めており、「環境」（14.2%）、「子ども」（13.2%）、「文化」（12.6%）、「まちづくり」（11.9%）、「社会福祉」（9.5%）、「スポーツ」（8.8%）、「心理」（7.3%）、「ボランティア活動支援」（5.0%）と続いている。2005年度と2006年度では、「国際」が第1位、そして「子ども」が第二位と固定していたのに対し、2007年度では「環境」が以前の第3位から第2位に浮上、数値も2006年度が12.4%だったのに対し、2007年度は14.2%と上昇している。他の分野に関する順位や回答の割合はこの3年間ほぼ変化がなく、本学

の学生たちが関心をもつ分野には一定の傾向があることがわかった。

関心のある各分野について、さらに関心のある領域について詳細に回答してもらった。「国際」に関しては、「異文化交流」(67.2%)、「国際協力」(55.9%)が突出して支持され、その後に「在日外国人」(24.1%)、「日本語サポート」(19.7%)、「通訳」(18.8%)、「翻訳」(13.1%)と続く。それに対し、「環境」は「動物保護」(41.6%)、「森林保護」(37.2%)、「ゴミ・リサイクル」(36.5%)、「地球温暖化」(36.4%)、「海・川・湖沼の保護」(23.5%)、「景観保全」(12.4%)、「農業」(9.9%)といった各領域がまんべんなく支持されており、学校教育やマスメディア等を通じて環境問題への理解がいつそう進み、新入生たちがそれぞれの領域において関心を持っていることがわかる。「子ども」に関しては、「保育園・赤ちゃん」(60.9%)、「放課後活動」(49.7%)、「キャンプ・宿泊行事」(33.2%)、「スクールボランティア」(26.3%)といった領域に関心が集まっている。この活動分野に関してはとくに順位や回答の割合も2006年度とほぼ変化なく、同様の傾向が見られる。「文化」に関しては、「音楽」(62.8%)、「映画」(44.3%)が突出して支持され、その後に「美術館・博物館」(28.7%)、「歴史」(22.2%)、「食」(20.3%)、「演劇」(16.1%)、となっている。「科学」(2.6%)に関しては、2005年度以降、一定して低い支持しか得られていないが、これは本学の学部構成によるものと考えられ、大学生全体を対象とする調査等での傾向とはかなり異なっている。「まちづくり」に関しては、「祭り・イベント」(78.5%)の領域に対する支持が突出している。他に「災害」(20.7%)、「地域おこし」(14.7%)、「子育て支援」(13.2%)、「町並み保全」(6.4%)も一定の関心を集めている。「社会福祉」に関しては、「障がい児・者」(50.3%)、「高齢者」(40.4%)、「病院」(40.3%)といった領域が高い関心を集め、次いで「路上生活支援」(10.4%)、「自助グループ支援」(9.6%)となっている。「スポーツ」に関しては、「スポーツサポート」(54.6%)、「スポーツ指導」(48.1%)、「大会運営」(37.5%)の各領域がまんべんなく支持されている。さらに「心理」に関しては、「不登校児童・生徒の支援」(69.4%)と「メンタルフレンド」(53.6%)といった領域が関心を集めている。「ボランティア活動支援」に関しては、「企画・広報」(48.7%)、「事務補助」(30.2%)といった領域に関心が集まり、その他に「人材育成」(17.8%)、「ボランティアコーディネート」(16.1%)、「ホームページ管理」(14.3%)、「政策提言」(8.4%)、「資金調達」(6.4%)となっている。

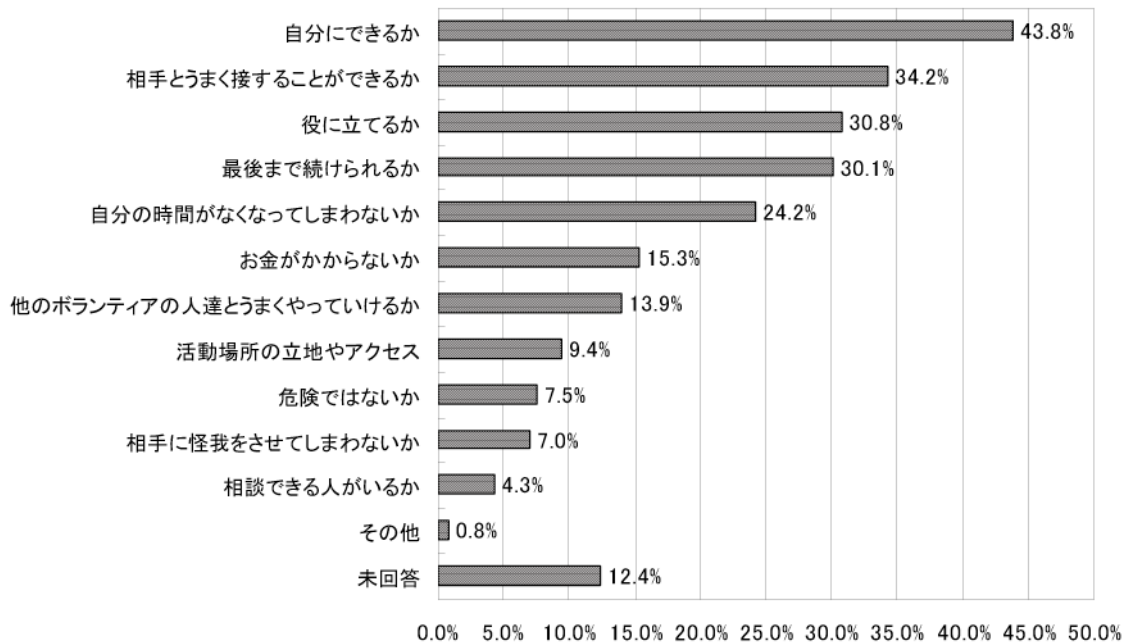
【図8】 どのようなボランティア活動に関心がありますか 全学科（複数回答）



(4) ボランティア活動に対する懸念

「ボランティア活動を始めようとするとき、主に心配なことは何ですか」（複数回答）【図9】という質問に対して、一番多い回答は「自分にできるか」(43.8%)だった。続いて「相手とうまく接することができるか(34.2%)、「役に立てるか」(30.8%)、「最後まで続けられるか」(30.1%)、「自分の時間がなくなってしまわないか」(24.2%)となっている。上に紹介した回答に関する順位や回答の割合は、2006年度とほぼ変化がなく、本学の新生が一定の傾向を持っていることがわかった。

【図9】 ボランティア活動を始めようとするときの懸念

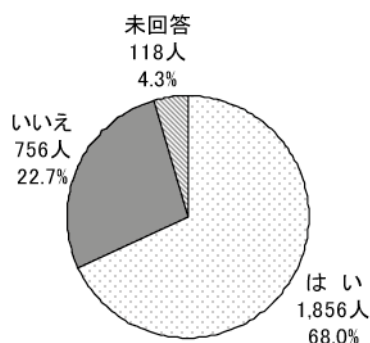


(5) 明治学院大学ボランティアセンターの認知度

最後に「明治学院大学にはボランティアセンターがあることを知っていましたか」【図 10】という質問をした。「はい」と回答したのは68.0% (1,856人)、「いいえ」と回答したのは22.7%(756人)だった。

「はい」と回答した新生の割合の変化を2005年度から見てみると、2005年度には41.6%、2006年度には42.3%だったのに対し、2007年度には前述のとおり68.0%と大幅に上昇している。明治学院大学には、ボランティア活動を支援するためにボランティアセンターがあるということが、新生の3分の2に認知されてきたことがわかった。

【図 10】 明治学院大学にボランティアセンターがあることを知っていましたか



3. 調査結果に対する考察

今回の調査結果から、2007年度の新入生の半数近くが、大学入学前にボランティア活動に参加した経験があることがわかった。大学時代にボランティア活動に参加したいと考えている学生は56.3%であり、参加したい理由は「新しい人と出会いたい」、「ものの見方や考え方を広めたい」、「知識を広げたい」という自己実現型の参加動機をもっていることがわかった。同時に、「地域や人のために役立ちたい」という回答が第4位であり、2006年度が第7位だったことを考えると2007年度の新入生の傾向を特徴づけるポイントのひとつとみなすことができる。ボランティア活動を自己実現の手段とみなすだけでなく、他律的な活動と認識し他者志向型の参加動機をもっている新生が一定数、在学していることがわかる。

大学時代にボランティア活動をしてみたいと希望している学生に対して活動スタイルの希望を尋ねたところ、2006年度と同様の傾向がみられた。すなわち、「長期期間中に」、「期間を決めて」、「いろいろな活動に挑戦していきたい」と希望する学生である。あるいは「2か月に1回くらい」といったゆるやかな拘束のもとで、他の活動と両立させながら活動したいと希望する学生である。

ただし、ボランティア活動に参加してみたいという希望を持っている学生が、わずかではあるが2007年度も再び減少したことを指摘しなければならない。「参加したい」と回答した学生が、2005年度には63.1%、2006年度には60.4%だったのに対し、2007年度はさらに低下し、56.3%となっている。学科別

に集計すると、国際経営学科や心理学科など一部の学科では「参加したい」と回答した学生の割合が上昇しているのに対し、多くの学科で「参加したい」と回答した学生の割合が2006年度と比較して10%前後も低下するなど、2006年度とは異なる傾向が確認された。参加したいとは思わない理由については、2006年度と同じ傾向が見られた。すなわち、「時間がない」、「関心がない」、「きっかけがない」である。小さな変化ではあるが、「時間がない」は2006年度が49.3%だったのに対し、2007年度は47.0%に減少し、「関心がない」は2006年度が34.0%だったのに対し2007年度は34.4%と微増している。

関心のある活動分野については、「国際」が高い支持を集め、なかでも「異文化交流」、「国際協力」が関心をもたれている。次いで、2006年度は第3位だった「環境」が第2位に浮上し、「動物保護」、「森林保護」、「ゴミ・リサイクル」、「地球温暖化」などの各領域がまんべんなく支持されていることがわかった。例年、関心の高い「子ども」の分野においても、「保育園・赤ちゃん」、「放課後活動」、「キャンプ・宿泊行事」、「スクールボランティア」などがそれぞれ一定の支持を集めている。

この質問項目で、活動分野に加えて、関心のある領域を詳細に尋ねているのには、ふたつの理由があった。ひとつは、回答の傾向を分析し、ボランティアセンターで募集したり企画したりするプログラムの内容を決定時の根拠として活用したいからである。実際に、2007年度には「異文化交流」であるスリランカ大使館が行うイベントの運営ボランティアや、「スポーツサポート」である東京マラソンの運営ボランティアなどの情報を選び発信するなど、調査結果に合致するような支援を試みてきた。もうひとつの理由は、このような詳細な領域のアンケートに接することで、ボランティア活動にはこのような広がりがあるということを紹介したいからである。ボランティア活動に参加してみよう并希望している学生が、詳細な領域の一覧を目にする中で、「自分ならどれをやってみようか」、「これならできそう」と思ってもらえるよう、できるだけ多種多様な選択肢を用意している。とはいえこれらの選択肢は、大学生でも活動でき、また本学のボランティアセンターが実際に活動先をコーディネートできる範囲にとどめられている。「これなら」と思った領域に関する相談をセンターは随時受け付け、そのときに適切な情報を提供できなかったとしても、その後にフォローする体制を整えている。

ボランティア活動を始める際の懸念事項は「自分にできるか」、「相手をうまく接することができるか」、「役に立てるか」、「最後まで続けられるか」が、2006年度同様大きな理由となっている。いずれもボランティアセンターにひとこと相談してもらえれば、活動先の様子、活動内容の詳細、負担度、他の学生の経験談などから解消できる不安である。ボランティアセンターの認知度についても、2006年度の42.3%から大幅に上昇し68.0%となった。

これからは、より多くの学生たちがボランティア活動に関わることができるよう、情報や支援を提供するなど、よりいっそうの体制を整えていきたい。また、新入生アンケートから得られた貴重なデータを、今後の活動に活用し、よりよいプログラム作り、よりよい支援体制を築いていきたいと考えている。

(坂口)